

我が子にある日突然、

「もう私、学校には行きたくない」

と言われたらあなたならどうしますか。子どもがもう一度笑顔を取り戻し学校生活に復帰できることを願い、親としてどのように関わればよいか必死に模索するのではないのでしょうか。子どもが精神的に辛い場面に直面した時、親は子どもの思いを全て受け止め、常に味方であり続ける姿勢が子どもの心の支えになる、と私は考えます。

私の娘は、小学校六年生の時に不登校になりました。娘は小さい頃から明るく活発な性格で、学校のクラスの中でも比較的目立つ存在でした。下校後は毎日のように何人かの友だちが家に遊びに来てくれて、声を上げて笑いながら庭を走り回って

いました。その光景はとても微笑ましく、娘が友だちに恵まれ、そして充実した日々を過ごせていることに私は安心感を得ていました。

娘が六年生になった頃から、今まで家に遊びに来ていた友だちを見かける機会が少なくなり、家に一人で過ごすことが多くなりました。最近では学校でのできごとにも私に話をしなくなつたなど不審に思い、「そついえば、最近学校どう？○○ちゃんたち最近家に遊びにこないけど何かあったの」と、娘に聞いてみました。

「別に何でもないよ。ただ、最近遊ばなくなっただけ」と、素気なく娘は返答しました。私もその時、女の子同士は気の合う友だちグループを作って行動するし、グループも流動的に変わる場合もある。高学年の女の子にはよくあるこ

とかなど、その程度に考えていました。その後も普段は明るく過ごしていましたが、何気ない時の表情が暗く、何か影を落としたようにも見えました。流石に娘の様子がおかしいと思い、娘と二人きりになった際に、「やっぱり何かあったんじゃないの。様子が変だし何でもいから今自分が思っていることを話してくれていいんだよ」と優しく声をかけ、共感的な姿勢で尋ねてみました。すると娘は急に力が抜けたように床に座り込み、顔を俯けてボロボロ涙を溢しながら話し始めました。

「ママ、私もう学校には行きたくない。友だちからも避けられていて、グループの輪にも入れない。学校で一人で過ごすのがしんどい」その言葉は衝撃的でした。私は娘が毎日楽しく学校生活を送っている

と思い込んでいました。娘が出していた些細な SOS サインに気付かなかつたことが悲しく、親として情けない思いでした。一人の時間が娘にとつてどんなに寂しく孤独だったのか、その思いを一人で抱え込むことがどんなに苦痛だったのか。娘の気持ち想像するだけで、胸が張り裂けそうになりました。そのことを機に娘は不登校になりました。学校を休むことで娘は精神的に楽になると私は考えましたが、家で過ごす時間が増えたことで人との関わりの機会が減少し、娘は明るさを取り戻すどころか孤独を深める結果となりました。

私は娘の学校生活復帰への思いに焦りを感じていましたが、二人で遊びに出かけたり家で勉強を一緒にしたりと、娘がやりたいと思えることをできるように過ごしました。娘の表情にも笑顔が戻りつつありまし

井戸水の使用・変更には届出を

井戸水などの水道水以外の水を使用して、公共下水道や農業集落排水に汚水を流す場合には、あらかじめ市への届け出が必要です。

すでに届け出をしている方も、次の変更がある場合は市への報告が必要です。

- ・井戸水から水道水へ切り替えたとき
- ・井戸水を使用する箇所に変更があったとき
- ・転入転出などで使用人数に変更があったとき

問 (市)下水道課 下水道業務係

下水道に危険物や有害なものを流さないで

下水道に危険物や有害なものが流れ込むと、異臭や水質異常の原因となるだけでなく、火災や爆発などの思わぬ大事故を起こす可能性があります。

次のものは絶対に流さないでください。

- ・ガソリン、灯油、軽油などの石油類
- ・シンナー類
- ・手指消毒液などのアルコール類
- ・殺虫剤や除草剤などの農薬



問 (市)下水道課 下水道管理係

家畜の飼育状況を報告してください

家畜(ペットを含む)を1頭(羽)以上飼育している方は、家畜伝染病予防法により毎年2月1日時点の飼育状況を家畜保健衛生所に報告する必要があります。

▶対象となる家畜 牛、めん羊、山羊、馬、豚、いのしし、水牛、鹿、鶏、うずら、あひる、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

▶報告期限 4月15日(火)まで(鳥類は6月15日(日)まで)

▶提出方法 県家畜保健衛生所のホームページにある報告様式に必要事項を明記し、郵送・FAX・メールにて提出してください。

問・提出 (県)姫路家畜保健衛生所

☎079-240-7085

☎079-232-2685

✉himejikhe@pref.hyogo.lg.jp

〒679-2166 姫路市香寺町中村595-15



▲ホームページはこちら

たが、根本的な解決には至らず、不登校になった自分自身に罪悪感を抱き続けていました。そんな時、娘が自身で調べ、不登校の子どもと親の居場所として開放しているフリースクールの存在を知り、行ってみたいと私に話してくれました。最初は人の輪の中にまた入れるのか不安に感じていたようでしたが、物作りや料理、ワークショップの開催等を通して人とのコミュニケーションにも自信を取り戻すことができました。

今、娘は転校し、友だちと何気ない会話をして笑い合ったり、勉強や部活に励んだり、自分自身が思い描いていた日常生活を送ることができています。それは不登校期間に親子間で自分自身を見つめ直し、心の充電期間を設けたことで、自分から行動したいと思えるようになったからだとは考えます。子どもにとって大切なのは、人との関わりです。一人では孤独の暗闇を抜け出すことは非常に難しく困難なことであり、周囲の人間が手を差し伸べることも必要です。また、フリースクール等

の多様化した個々の子どもに応じた居場所の確保も重要視する必要があると感じました。

子どもたちが毎日笑顔で自分らしく生きるためには、一番近くで見守る親や周囲の人間が子どもの視線に合わせて物事を考え、行動する必要があります。そして、子どもと向き合い続けることが、その子自身の自分らしさを導く糸口となるのではないのでしょうか。これからも私は、我が子の一番の味方であり続けたいです。

刈り草からつくった堆肥を無料配布

堤防の除草作業でとれた刈草からつくった農薬の入っていない安心な堆肥を無料配布します。

▶日時 2月12日(水)、13日(木)

午前9時30分～11時30分、午後2時～4時
(小雨決行・荒天時は順延)

▶場所 小野市下来住町 加古川右岸堤防上

問 姫路河川国道事務所 河川管理第一課

☎079-282-8505